



福西雅之さん



渡辺洋美さん



水島丈晴さん



森永淳俊さん

す。豊かな生活、人と人とのつながりというものがプラスされますから作るほうも誠意が加わり、買う人も愛着がわくというのは当然のこと。そういうことも検証していきたい。

そこでテーマとして「作った人の顔と名前が分かるモノに囲まれた心豊かな暮らしを」を挙げたいと思います。

参加作家ですが、「作品を販売できる人」。モノがある。だからアートの人のようにインスタレーションとかパフォーマンスではなくて、モノを作って、それを売って生計を立てている人が集まるというのが基本です。

陶芸、木工、染色、彫刻、絵画、版画、ガラス工芸など何でもいいと思いますが、販売・見学可能な工房があって、それを知ってもらいたい人。最近では個人情報がこのようと言って、中には人に来てもらいたくない人がありますから、そういう人には無理に参加してもらわなくてもいいと思います。それからワークショップや体験教室。それらもイベントの中でやっていけたらと思います。また、生け花や茶道の先生とコラボして、お花を飾っていただいたり、お茶席を設けていただいたら華やかになって人が集まりやすくなるのではないかと考えています。

具体的なことはこれから考えていきたい。まず、お集まりの皆さんに自己紹介していただき、お考えをお聞きしたいと思います。

**天狗寺** 加茂町で陶芸をしています。来年、窯を開いて40周年になります。僕はずっと美作地方の土にこだわって、主に津山市綾部の土を、綾部工業団地ができるのほとんど同時期だったです。その土を使って、1980年ぐらいから、穴窯という古い様式の窯。勝間田にある勝間田焼「須恵器」。これは鎌倉末期で絶えているのですが、それが穴窯だったこともあって、その研究を続けています。昔と同じようなことではなく、独自に現代の僕ができる研究をやっています。2月下旬には広島で40年記念の個展を計画しています。今回はこのイベントに賛同して出品させていただき、できるだけ多くの方に工房に来ていただけるような方向にやっていきたいなと思っています。

息子が数年前から手伝ってくれているので、息子を出席させたかったですけど、風邪で寝込んでいますので、とりあえず私が出席させていただきました。皆さん

若い人たちがどんどん精力的な活動ができるような美作地方であって欲しいなと考えています。

**山田** 福西雅之さんは窯を築いてから20年、今一番油の乗っている陶芸家と言っていい。磁器に藍で絵付けして陶芸されていて、最新刊の「炎芸術」に3ページにわたって特集されています。彼は日本を代表する陶芸家の域に達したと思っています。

**福西** 山田さんからお話をお伺いして非常にいい企画だなあと賛同させていただきました。10数年前は津山にも高島屋があって当時の店長さんをご熱心でよく美作の作家たちを集めた作品展を開催されました。当時、私は地元に戻ったばかりで、横のつながりもない中、その作品展に参加させてもらってから、少しずつお付き合いが広がりました。とてもありがたかったわけですが、その後、残念ながら高島屋がなくなって、工芸家が横のつながりを持つ機会がなくなってしまいました。経済情勢も厳しい中、こういう時期だからこそ、新たに工芸作家たちのつながりを作って、若手も育てている中、お互いに刺激を与え合って、交流が進めばいいと強く思っています。できる範囲の協力をして、いい形の展示会ができればと思っています。

**渡辺** 個人的に染色を始めて約8年になります。まだまだ勉強中で、有名な諸先輩方がおられる中、声をかけていただいて光栄です。微力ながら「美作の工芸作家」の一員として頑張りたいと思っています。幅広いジャンルということですけど、日本全国いろいろなところで、クラフトフェアが開かれて、大勢の人が集まっています。津山でも若い世代でクラフトに興味がある方もたくさんおられると思います。たくさんの人に知ってもらえるよう私もお手伝いさせていただきたいと思っています。

**水島** 木工家具を作っています。山田さんから話をお伺いして主旨が素晴らしいと思います。美作地域で若い作家たちが増えていて世代交代が進んでいる、ということですが、やっぱりモノを作る、作りたいと思う人は実際ものすごく増えていると思うのです。だからベテランの人、若者問わず、とにかく作り手がたくさん集まって、この展示会に来てくれた人が、とても楽しんで帰ってもらえるような、次回もまたあるんだったら行きたいなと思うものになれば僕はとてもうれしいなと思っています。